



特別賞

設計部門



第32回全国都市緑化あいちフェア 会場設計

株式会社ブレック研究所・中央コンサルタンツ株式会社・
玉野総合コンサルタント株式会社共同企業体
株式会社ブレック研究所
石垣良弘・松崎淳・山下有里
中央コンサルタンツ株式会社
三浦利夫・浅野誠一・串原喜之
玉野総合コンサルタント株式会社
村上良徳・川本敦子

全国都市緑化あいちフェアは、メイン会場となる愛・地球博記念公園で、“緑のある暮らし明日を愛知から 花を愛し、緑のチカラを知る 全国都市緑化 愛・知 フェア”をテーマに、58日間にわたり開催された。

花の棚田

農作物の大生産地である愛知県として、農風景の美しさで有名な「四谷の千枚田」（新城市）をデザインモチーフに、上流から棚田の四季の移ろいを色彩で表現。

平坦で細長い形状の花壇用地に、棚田状の地形的な変化を創造することで、主園路を歩く来訪者にシークエンスの景変化を与え、地形の天場には、背の高いススキなどのグラス類を植栽し、景を区切り、花壇の背景を整え、花の美しさを感じやすい

作品概要

作品名—— 第32回全国都市緑化あいちフェア会場設計
所在地—— 愛知県長久手市茨ヶ廻間乙1533-1
発注—— 第32回全国都市緑化あいちフェア実行委員会
設計—— 株式会社ブレック研究所・中央コンサルタンツ株式会社
玉野総合コンサルタント株式会社共同企業体
施工—— 岩間造園(株)、大島造園土木(株)、(株)本陣
設計期間—— (基本設計)平成26年2月～平成26年5月
(実施設計)平成26年7月～平成27年3月
(施工監理支援)平成27年6月～平成28年1月※撤去含む
施工期間—— 平成27年3月～平成27年9月
規模—— 約20ha
主要施設—— 花の棚田、あいちの庭、鏡の中の花畑、緑化壁、デザインウォール、花しずく、フレンドシップ花壇 等

作品評

本作品は、平成27年に愛知万博10周年を記念して開催された「都市緑化あいちフェア」の会場設計であり、万博の記憶と共に、50年間花卉生産日本一の実績を誇る「花の王国あいち」をアピールする計画となっている。
40万株を超える花卉を地元調達で賄った点や、ストックヤードを無くして計画的な運営で花卉の供給を図った点、また様々な花種を場の表現に合わせて効果的に用いた手法などの、花卉生産という地域産業との一体的運営がうまく進められたことが評価された。また、舗装広場や人工芝の上に展開された花畑が印象的な景観を展開していた点、そしてそれを可能とした植栽基盤の工夫といった技術的内容にも評価が集まった。ただし、これらの仮設的な施設が、フェアという性格から一過性なものとなってしまった点などから特別賞となった。



①②③ “花の王国あいち”を魅せるダイナミックなボーダーガーデン
④⑤⑥ “花の棚田”代掻き時期の水田の「青」～田植えの苗の「緑」～成長していく稲の「黄」～稲が穂を实らせた「赤」。棚田の四季を花の色で表現。

⑦⑧⑨ 花畑の景を鏡に映しどこまでも花畑が続く“鏡の中の花畑” ⑩最新の壁面緑化技術を示した“緑化壁(垂直庭園)” ⑪愛知万博の思い出写真を展示した“デザインウォール” ⑫愛知県の伝統工芸「有松絞り」の額縁 ⑬⑭造園技術をいかした植栽基盤の創出による花の演出

次々と移り変わる花の景を創出。

豊富な品種と量、高品質な花卉を、きめ細かく配植することで、国内でも最大規模のボーダーガーデンを展開し、50年以上にわたり花き生産日本一を誇る“花の王国あいち”を象徴する花壇を演出。

都市緑化フェアはイベントのため、本来仮設的な施設となる傾向があったが、完成度の高い“花の棚田”を公園施設として残すことが可能となった。

“万博の思い出”を軸とした会場の展開

あいちフェアのメイン会場は、平成17(2005)年に開催され成功を取った愛知万博の会場であった愛・地球博記念公園で、万博の「グローバル・ループ」の線形・幅員を活かす公園の主

園路に沿って5つのエリアや来訪者の目を楽しませるコンテンツを配置し、“万博の思い出”を彷彿とさせつつ、賑わいを生み出す空間構成とした。

造園技術を活かした花の景の演出

舗装面が多く、植栽基盤確保が課題であった計画地では、人工地盤上のように植栽基盤を確実に確保するため、芝付きヤシロールの土留め、土壌積みの表面にハニカム状の不織布で基盤を創出するなど、造園的な手法により修景要素としても花壇に馴染む工法を採用した。このような工法は、簡易な人工地盤上の緑化手法としても有効で、撤去時にコンクリートなどの使用量が削減でき、廃棄物を最小限に留める効果があった。